

校内放送で本紙音読



NIE(教育に新聞を)の一環で勝山市荒土小は、県内小学生の投稿を紹介する本紙の連載コーナー「キッ

ズこだま けさのはつぴよ」を児童が音読し、校内放送で発表する活動に取り組んでいる。児童からは読むだけでなく、自分も投稿したいとの声も上がり、新聞への関心が高まっている。新聞に親しむきっかけに



校内放送で、「キッズこだま」を音読する児童。4日、勝山市荒土小

勝山・荒土小「キッズこだま」活用

しようと1月下旬に始めた。児童1人が毎日の給食の時間を利用し、それまでの投稿から好きな文章を選んで読み上げ、感想を付けて紹介する。子ども

の投稿から好きな文章を選んで読み上げ、感想を付けて紹介する。子ども自主性を育むため読み手は立候補制で募り、しっかり言葉をしやべること表現力の向上にもつなげている。今年4日には3年の平鍋安胡さん(9)が挑戦。マツト運動で苦手な技にもチャレンジしているという子どももの投稿を読み「わたしもピアノで、できないをでき

るに変えられるように頑張りたい」と締めくくった。放送後、平鍋さんは「緊張したけれど、間違えなくてできてうれしかった。こんどは自分も投稿したい」と意欲を燃やしていた。道関直哉校長は「新聞に関心を持ついいきっかけになっている。定着させたい」と話した。(桂知之)